

學

伴東小学校 校長室だより

【伴東プライド】を中核に、
「やる気いっぱい 笑顔いっぱい」の学校



台風注意

ここ数年、9月のたよりは同じような内容の書き出しとなっています。そして、今年もまた自然災害の状況をお伝えすることとなり、複雑な気持ちではありますが、近年の自然環境の変化に意識を向けなければならないことを再認識しています。

9月5日に発生した台風15号が関東地方に上陸し、千葉県を中心に大きな被害をもたらしました。当初はそこまで深刻な状況ではないように受け止めていたましたが、長期間にわたる広範囲での停電や強風で吹き飛ばされた住宅の屋根の破損等、想像以上の大変な状況となっています。

私たちの広島でも昨年7月、大雨で広範囲にわたる地域で土砂災害や川の氾濫等の水害が発生しました。8・20広島土砂災害の記憶はまだ新しく、その復興復旧がまだ完全に終わっていない時に追い打ちをかけるような災害でした。年々増加傾向にある自然災害に向けての備えと実際に遭遇したときの対応や行動について、真剣に考え取り組んでおかなければなりません。

学校では「火災・地震・土砂災害」を想定した避難訓練と、「不審者侵入」を想定した避難訓練を行っています。訓練したことが役立つようなことがあってはいませんが、常に意識レベルを高く保ち安全行動につなげていきたいと思えます。

話を夏季休業中のことに戻しますが、今年はプール開放の時間帯を午前中に変更して実施していただいたため中止の回数も少なく、連日多くの児童が参加することができました。プールの中で思い思いに友達と遊泳して楽しんでいる子どもたちは、「とっても気持ちいいです！」と笑顔で答えてくれていました。補助監視にご協力いただきました保護者の皆様、暑い中ありがとうございました。感謝申し上げます。また、8月18日（日）にはPTA主催「親子奉仕活動」に多くの皆さんにご参加いただき、学校の環境整備を行っていただきました。お陰で今週末に実施予定の運動会を気持ちよく行うことができます。重ねて感謝申し上げます。余談ですが、学校では夏季休業中に学区のいろいろな場所に教職員が出向き、子どもたちの様子を巡視確認いたしました。暑さのせいもあり、どの時間帯も子どもたちの姿をあまり見ることはありませんでした。地域からも子どもたちに関わる連絡はなく、暑さをしのぎながら元気に過ごしてくれたようでした。



さて、今週末は子どもたちにとって大切な学校行事である「運動会」を予定しています。保護者の皆さんからの要望を受けて今年は土曜日の開催に変更いたしました。各家庭におかれましては他の行事と重なり、ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。先週末から思いのほか涼しくなってきました

したが、天気の良い日の陽ざしはまだ夏のままです。一日の疲れを次の日に持ち越すことの無いよう、十分な睡眠時間の確保と体調管理にご配慮ください。そして、運動会本番をベストな体調で迎え成長した姿を披露してくれることを期待しています。（28日、お天気がもちますように・・・）

前期後半が始まりましたが、「あいさつ」が少し低迷しています・・・ 相手の目を見て、はっきりと伝わる声の大きさに「あいさつ」を!!

前期の後半が始まりましたが、「あいさつ」が低迷しています。8月30日の朝は久しぶりの登校と休み明けということもあり、また元の状態に徐々に戻ってくれるだろうと思っていました。が、9月の1週目も2週目も状態は変わらず、「朝から元気がないなあ・・・」と心配になるくらいでした。当然、いつも通りに元気よく大きな声で挨拶をしてくれる子どももたくさんいます。しかし、全体的には低迷と言っている状態です。ご家庭ではいかかでしょうか？

先日の運動会の全体練習の場で、「みんなの家庭生活は、挨拶（おはよう）で始まり、挨拶（おやすみなさい）で一日が終わっているよね。」と話しました。その朝の始まりを元気よくお互いに迎えようと伝えました。見守り活動をしてくださっている地域の皆さまも、「子どもたちのあいさつに元気をもらおう！」と常に言っておられます。朝夕の見守り活動を気持ちよくしていただくためにも、爽やかな「あいさつ」を子ども達から進んで行ってほしいと願っています。様子を見ていただき、ご家庭でも子どもさんへの言葉かけをお願いいたします。



来年度から使用する教科書の検定が終了し、準備が進められています。 大学入試・県立高等学校入試の制度変更が発表され、身近な課題です!

このような見出しを見られると、「えっ！子どもはまだ小学校なのに関係あるの？」と思われるかも知れませんが、小学生からすれば高等学校や大学はまだまだ先のこと・・・のように感じますが、そんなことはありません。私が本校で関わった卒業生は、すでに大学生となっています。久しぶりに出会うと「えっ！もう大学生なの?!」とこちらが驚くほどです。小学校は6年間あり、ある意味長く感じます。とりわけ保護者の皆さんには一番手を必要とする時期ですので、長く感じられます。ところが手が離れてきた中学校は3年間、そしてあっという間に高等学校入試です。実際私の身の回りも、そのような子どもさんばかりです。

大学入試の制度変更は4年前に提示されました。「大学教育の質的変換の断行」というフレーズが耳に残っています。また、先日広島では県立高等学校の入試制度の変更がニュースで報道されました。これらの変革は全て、今本校に在学している子ども達にあてはまるものです。言い換えれば、身近な課題として捉え、状況を見極めながら対応できる力を身に付けていく必要があります。もっと言えば、直ぐに直面することであり、避けては通れないということになります。

大学も高等学校も、「知識・技能」を基盤として「思考力・判断力・表現力」に併せて「主体性・多様性・協働性」が求められます。慌てずに、学校での学習や家庭生活の中で培っていかねばなりません。家庭と学校と一緒に取り組んでいきたいと考えます。（次号に続きます）



